

「住みよいまちづくり」に向けた集い
令和2年度第2回定例会（第19回）報告

日 時	令和2年6月21日（日）午前10時～11時半
場 所	わくわく健康プラザ 2階 集会室1
担 当	司会：山口信夫 記録：事務局
参 加 者	16人（敬称略・順不同） 〈地区9名〉 沖原寧子、北川 学、喜村秀子、佐々木智恵子、和田きみ 山口信夫、杉本博嗣、三牧宏彬、矢島美保子 〈関係者3名〉 市福祉総務課 明日係長、市防災防犯課 井上主査 西部地域包括支援センター 野島生活支援コーディネーター 〈社協4名〉 荒島局長、大澤次長、岡野主査、江連
配布資料	(1) 次第 (2) 令和2年度の運営・取り組み (3) 弥生地区「住みよいまちづくり」に向けた集い 会則 案 (4) 令和元年度 地域福祉コーディネーター事業 行動記録の統計

1 社協及び関係機関の紹介

- ・荒島事務局長：4月より社会福祉協議会に参りました荒島久人（あらしまひさと）と申します。どうぞよろしくお願いいたします。弥生地区の皆様につきましては社会福祉協議会の事業についてご支援ご協力を承りまして、誠にありがとうございます。この会は、今回19回目と伺っております、このように回数を重ねてのご協議に感謝申し上げるところでございます。社会福祉協議会といたしましても、今後これからの運営につきまして自主運営に向けてお手伝いさせていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。
- ・明日（市福祉総務課）：東久留米市役所 福祉総務課 係長をしております明日（ぬくい）と申します。今年3年目でございます。弥生地区におきましては自治会同士がつながってひとつのことをしていく、市内では独自の取り組みを5年間すすめてまいりまして、新型コロナウイルスによって先行きが見えないところではありますが、せつかく5年間取り組んだこの大切なつながりがなくならないように、今後も続けていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いい致します。
- ・井上（市防災防犯課）：ご無沙汰しております。防災防犯課の井上です。今年も集いに参加させていただきます。新型コロナウイルスのことにに関して、少しお話をさせていただきます。防災訓練や活動に大きく影響します。当然命を守る行動をするのに、感染しては意味がありません。どう折り合いをつけていくか、けして何もできないわけではありませぬので出来ることを選んでやっていくって事が大切です。引き続きよろしくお願いい致します。

- ・野島 (西部包括) : おはようございます。生活支援コーディネーターをしております野島と申します。高齢者の皆さんが地域で、自分の住んでいるところで長く暮らせるように、努力して参ります。地域づくりでいちばん大事なのが、皆さまの顔が見える間柄というところを大事にしていけたらと思います。6月の終わり頃から、やっと地域センターの利用が開始されて、少しずつ地域での活動が動いています。まだ高齢者施設は開放が長引いておりますけれども、7月から飲食をともなう会のグループさんも動きだせるということを示から言われています。またその際は、皆さまに注意事項をお話出来たらと思います。

2 集まりの目的と経緯

- ・江連 (社協) : 次第のとおり、集いの目的は二つです。一つ目は弥生地区での生活上の困りごとや気になること、取り組んでいることなどを、ひとりで抱え込まずにみんな情報共有すること。二つ目は、弥生地区に「あるとよいこと」「できたらよいこと」、顔の見える関係づくりの取り組みなどを急がず無理なく、みんなですることに取り組むことです。

平成27年度に地域福祉コーディネーター事業の地域支援のモデル地区を弥生として、自治会や皆さまから懇談会やアンケートでのお声を反映して集いの場を定期開催して参りました。一昨年秋から秋まつりを開催し、皆で役割分担をするなど自主運営への方向へすすめられています。

そして、今回の集い開催の通知を送付するにあたり、杉本さん、喜村さん、矢島さん、和田さん、石川さんに配達をしていただきました。今年度から自主的な集まりに向けて伴走させてもらいながらすすめていけたらと思います。今日の進行、記録、報告に関して、どなたかしてくださる方がいたらお願いしたいのですが。

- ・山口 : すごく下手ですが、まず始めにとりあえず私がやります。
- ・江連 (社協) : ありがとうございます。では山口信夫さまお願いします。続いて、記録報告はいかがでしょう。メモ程度で結構です。ホワイトボードがありますので、書き留めていただければいい。誰もいなければ、事務局で記録を取らせていただきます。では今回は事務局でやらせていただきます。では、進行を山口さんお願いします。
- ・山口 : 私、今年から小学校を卒業して西中学校の用務員となりました。よろしくお願ひいたします。司会進行がものすごく下手です。次の人のためにやってみたくと思います。よろしくお願ひいたします。では式次第に従っていきたくと思います。

3 自己紹介・情報交換

- ・喜村 : 今回も防災マップをいただいたが、何か変わっているところはありますか？
- ・井上 (市防災防犯課) : 大きく変わっています。例年の変わり方と大きく違うのは地図を開いた裏側に水色の地図があります。2年ほど前に弥生地区で水害とか災害についてお話をさせていただいたが、洪水に関する予想をする浸水予想区域図というものが加わりました。

弥生地区は今まではあまり塗られていなかったのですが、地図を見ていただくとほぼ黄色になっています。これは予想できる最大降雨でどのくらい浸水があるかと

いうシュミレーションしたものです。全体が水色になっている、同じような地図で紛らわしいですが。次に裏側にある全体が水色になっているハザードマップといたします。最近水害が多くなっています。それに伴って降ると思われる最大降雨の見直しをしましておよそ4年前、平成28年にわりと大きな規模の災害がありました。その災害をさらに大きくして信じられないような雨が継続して降り続くという想定をしました。弥生は川がありませんが市内一体で雨が降ると道路に水が溜まる冠水が発生したり、例えば新青梅街道の一部が冠水します。

実際に家が流されたりすることは起こりえないと思いますが、浸水などで避難しなければならぬ時、いままでは20cm以上で支障があるといわれてきましたが、実際は10cm以上でも転倒してケガをしたという事例があった。そのため、10cm以上の浸水があるところにも色が塗られています。

従って、今までの地図とくらべて浸水地域が広がった理由は、想定範囲が広がったということと、色を塗る条件が変わったという二点です。

市内を見渡すと、水色が濃くなっているところがある。そこは地域の人にお見せして、一緒に具体的な避難計画をたてましょうと説明している。弥生地区は、もともと市内では標高の高いエリアということもありまして、一般的な河川の注意をいただければ、大きな水害があるわけではありません。ただ前にもお話ししましたが、水が溜まって通行の妨げになったり、場合によっては家が浸水して玄関先まで水がくることがあります。地図をみて具体的な対策ができるわけではないけれども、そういう想定があるということを知っていただければと思います。

また地図は今年も少しずつ修正しているので、2020年版と書いてありますが、2021年版を作ってみなさまにお届けします。

- ・杉本：東久留米市弥生自治会の杉本です。よろしくお願ひします。色々なお話がありました。いよいよ大台80歳を過ぎましたので、こういう会に出られなくなるのではと思っております。体調もあまりよくないですね。今年はお祭りとかどうなるかわかりませんが、できること（ぶんぶんゴマの作製）をやってきました。お祭りができるかどうかを今回ははっきりしてもらいたい。あと、そういうもの作れるひとを見つけなければと思っております。今年は何とかやります。よろしく。
- ・佐々木：弥生台自治会の佐々木です。いつもありがとうございます。今、心配なのは、主人が剣道をしているが、顔の前にフェイスガード、マスクもして剣道ができると思うか、との話があつて。2m距離をとって剣道できるものではないので、どうやって練習するのか。また、防災マップ上で弥生がほとんど黄色になっているので少し考えた方がよいのではと。集いで議題にして話し合うのがよいのではないかと。よろしくお願ひします。
- ・北川：弥生台自治会の会長の北川です。今まで役員をしたことがなく、自治会の運営は初めて。この場にも初めて参加させていただきます。以前どういう感じだったのか最初は様子を見させていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。
- ・矢島：弥生一丁目の矢島です。弥生台自治会の方にはいつもお世話になっております。暮らしているマンションには自治会がないので、少しでもお話を伺おうと参加した。よろしくお願ひします。
- ・喜村：弥生台自治会の喜村です。「サロンやよい」（ピアノやギター伴奏で歌を歌う

場、参加費200円、毎月第二木曜日の午後2時～4時、けやき園地域交流スペース)を開催させていただいています。

- ・三牧：弥生2丁目の柳自治会で今年から会長ということで、自治会の活動をしようとしているのですが、コロナの関係で何もできておらず引き継ぎもうまくいっていないという状況です。集い開催のお知らせがきたとき、会長として様子を見に来なければならないということで参加させていただきました。あまり知識がないのですが、よろしく願いいたします。

- ・和田：弥生台自治会の和田です。

- ・沖原：弥生2丁目に住んでおります、沖原寧子と申します。仕事の事務所は都内ですが、お一人暮らしでお出かけが難しいシニアの方にお電話であったり、お手紙を書いたり、おしゃべりの時間を届ける事業を行っております。

東久留米にはもう17年住んでおまして、それこそ娘が西中で、地域の皆様に助けていただいて、おかげさまで元気に大きくなっております。そろそろ地域のことも勉強して、できることがあればお役に立っていきたいと思い参加させていただきました。どうぞよろしく願いいたします。

- ・山口：先ほど紹介しましたが、やっと中学生になりましたのでこれからも弥生のため、東久留米のため、住みよいまち、暮らして楽しいまちなので、もっともっと良くしたいのですよ。ただ自分では何もできないのですが、参加して、めんどくさいことでもなんでも。65歳なので死ぬまで何年もないので何でも受けてみよう。今までは断っていたけれど、何でも受けてみようとの気持ちでこれから生きていきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。

では、次に皆様の地区だけでなく、自分で困っていることがありますよね。例えば弥生地区をこうした方がよいとか。私だと西中だったら、こうだったらよいなということがありますが。そういうことをなんでも言うてみていただきたいです。一人暮らしの人がいるから困っているとか。学校こうなのにもうちょっと何とかならないかなあとか。

- ・杉本：私が住んでいるのは弥生1丁目ですが、一時期やくざ者のような人が入ってきて。今はその家はないのでよいのですが、警察を呼んで最終的に解散させた経緯があります。あの時は参りました。

その時、私も転入したばかりで。事前に注意をして感じる必要がありますし、やっぱり自分だけで悩まずに警察なりに相談すること。私は、田無警察署に連絡して説明したのですが、そうすれば警察も動けると。一人の意見ではなく、皆の意見があつて連絡すれば警察が動くということです。そういうのはまちを明るくする。大変なのです。そういうのは本当に大変ですよ。

その時は、まだ子どもが小さくて女の子だったので。学校から帰ってくる時にうろうろとね。20人くらいいる時もある。変な女の子連れ込んで。早く気がついて、こうした場をつくって皆で話し合う必要がある。やはり一人の力ではどうにもならないので。やっぱりお隣さん同士の連絡とか、話をするのが必要なのではないかと思います。

- ・江連：自治会の近くに新しい戸建ができましたが、関わりはありますか。

- ・杉本：そうですね。新たに13件戸建ができました。それ以前の家には古い名士の

方とかいらっしやいます。でも今はそういうこと関係なく付き合っています。

やっぱりみんな歳ですよ。私も歳ですが体が動きますから。植木を切るとか、狩るとか。高いところはできないですけども。そういうのを奥さんががんばってやっていて、手が空いている時は手伝っている。やはり町内に目を向けて注意していると、お手伝いすることも出てきます。

朝、子どもたちが学校行くときには見送ってあげるとかね。「おはよう」「いってらっしやい」くらい。あるいは帰ってきたときは「おかえり」「暑かったね」とか。そういう声かけは、絶対必要だと思います。まあ、そう思って仲良くやっています。

- ・ 山口：声かけをしないと、歳をとっているから変なおじさんが歩いていると思われる嫌ですね。とりあえず「こんにちは」と極めて明るい声で言っているのですが。
- ・ 杉本：今までお祭りとかやってきましたよね。あれで顔を覚えてくれている。周りの人が顔を覚えていてくれる。
- ・ 喜村：私も家の前で掃除をしたりして、子どもたちが帰ってくる登下校の時、「おかえりなさい」と声をかけても、ひとりも答えませんよ。知らん顔していきますよ。「おはよう」と声をかけても言わない。言っちゃいけないということになっているのかなとも。
- ・ 山口：恥ずかしいっていうのもありますね。西中に転勤になって、近くに滝山公園があるのですが、すごく汚いのですよ。今、朝に一生懸命掃除をしている。小学生や中学生も通るのですが、最初は慣れていない。「おはよう」「おはよう」と言っても「えっ？この人誰？何このおじさん」という感じで。4月から5月半ば頃まで、まあ登校日も少なかったので、子どもたちは「やばい」と避けて通っていた。でも最近になって「おはようございます」と言える子もでてきました。特に中学生は、もうまず挨拶しないなと思ったけど、最近はちゃんと挨拶して。

昨日も学校登校日だったが、私は休みの日で、買い物でそこの通りを歩いていたら中学生は自分からは声をかけてこないのだけど「守衛さんが歩いている」という風に見ていて「おう。今日は学校だったのか」と聞くと「あっ、そうです」と答えてくれる。なんていうかな「継続は力なり」というけれど。向こうが返事なくても、取りあえず挨拶すれば大丈夫だと最近思っている。挨拶するのが一番かなと。

- ・ 佐々木：話の続きになるかもしれませんが、とにかく昔は外にでて奥さま同士が井戸端会議をしていた。今は一切ない。外で立ち話をしない。下手すると隣にどなたが住んでいるのかわからない状態です。

弥生台自治会があるけど自治会にさえ入ってくれない。新しく越してきた方が「うちはいいです」ということで。自治会の存在意義は何だろうということになっています。手間ばかり増えてよいことがない。必要がないことになってきているのではないかと思います。やはり、外に立っていると話す機会もあるし「あーこのおばさんだな」と認識してもらえるからよい。

そういうことがなくなってきた世の中なので、今回まで続けてきている「住みよいまちづくりに向けた集い」は、とても貴重だと思います。自治会にも入らないけれども、周りの人の顔も知らない。何かあったときに助けてもらえないのではないか。誰がこの家に住んでいるかがわからない。「おい。大丈夫か」と声をかけてくれる人がいないと、とっても怖いこと。発展させて、お隣近所の誰でも声をかけ

あえて「どお？」と言えるまちづくりに昇華させていけるとよいなど。いまそれが一番となっています。以上です。

- ・北川：私が会長になっていろいろ資料を見た時、防災マップに避難所などの情報が掲載されていたが、今までは見ないでスルーしてしまっていたなど。皆は意識して過ごしているのかどうか、ちょっと不安だなと。自治会に入っている人には周知しているが、入っていない人もいる。実際にちゃんと避難ができるのか？実際に避難しようとしたときに、誰が指揮をとってくれるのか？そういうのがよくわかっていないので。ちょっとちゃんとわかっていなくて不安です。
- ・山口：弥生は第九小学校の体育館が避難所になるでしょ。去年の台風でも、夏場にこの体育館に避難してきたらどうなっちゃうのかなと思いました。暑いし、体育など40度まで上がって中止になるし。もしもケガをして、体育館にきた時に40度50度になる場所に避難をしてよいのかなと思ひまして。
- ・北川：滝山とかいろいろな地区から人がきて、キャパシティとか大丈夫なのかなと。
- ・山口：防災倉庫を見てみると「えっこれで足りるの？」と。水とか小学校と地域の分で足りるのかと。体育館が2階にある小学校ではケガした人は上がれるのかと。これで本当に防災なのかと単純に疑問に思った。もしも、自分がケガをしたらどうやって行けるかなと思ひて。

ちょうど大阪で地震があつて、塀が倒れて通学中の女の子が亡くなった。学校のまわりに塀はたくさんある。ここを歩いていてバタンと倒れたらどうするのか。助けるといってもジャッキも何もない。対応するのは用務員だよなど思ひながら小学校で働いていた。

まず、実際に歩いてみるのが一番かなと思ひ。高い塀がある道は怖いです。弥生でも、塀の高いところが斜めになっていて、壁に穴をあけて木に括りつけているところがある。倒れた家が責任をとると言つたつて、何人もいたらできないじゃないかと。そういう思ひで道を歩いている。娘が妊娠しているので「おまえ、ここを歩いちゃだめだよ。こっち歩け」と言つています。そういつてもこっちにも高い塀あるし、ここは歩けないからやめようつて。逆に戻るときもあります。行政でどうにかならないのかなと思ひますね。避難所行くまでにどうしたらよいのかとかね。

- ・佐々木：避難経路の地図を作つているところもありますよね。地域を歩いてね。
- ・山口：正直、この集まりがあつたときに話をして、皆で避難所までどうやって行くか歩いてみた方が、よいのではないかと思ひました。今度一緒に歩きますか？
- ・佐々木：危ないところを点検しながら一回やってみましよう。涼しくなつたら。
- ・江連：以前の集まりで「防災まちあるき」など紹介したことがありますか、市内でやつてみたところとかありますか。
- ・井上(市防災防犯課)：地域で何ができるのかを考える場ですが、今出たものだけでも色々なことができました。弥生地区の避難所は第九小学校となっているが、市外の避難所でも大丈夫です。無理をして新青梅街道を渡らなくて避難できる。ルートさえ決まれば避難ができる。ただ、そうかといつて本当に避難ルートは大丈夫なのか。それは皆で実際に歩いてルートを決めたり、例えば水害時のことを考えると浸水するところは避けていかなければいけない。実際に浸水の危ないところはどこなのか、個人で抱えないで地域の皆で共有できれば立派な地域防災マップができます。

色々なところで防災だけでなく、防犯という観点でつくる動きもあります。市は必要な資料など提示ができます。ぜひ皆さんで歩いて、確認してもらうことはよいことだなど。確認することが一番安心につながると思います。安全な状況がどうなっているのか確認しながら、仕組みがどうなっているのかとか、課題とかが何なのか、私たちがしなければならないことが何か見えてくるのが大事だなどと思います。

山口さんのお話にありました避難所の倉庫ですが、一人ひとりの備えが基本であり、倉庫だけで備えが完結しているわけではありません。避難所のキャパシティも地域住民の全員がそこに集中するわけではないということです。

- ・山口：というわけで、今度みんな歩いてみましょう。
- ・矢島：困っていることは、喜村さんと一緒に「サロンやよい」をさせていただいて、マンションでも、ひとりでポツンとしている方がいらっしゃるようなのですが、なかなか声かけができないというか、お会いできない。会ったら声をかけようと思うのですがなかなか会えない。訪ねて声をかけるのも申し訳ないかなと思います。

先ほどのお話聞いて、ご近所の方への声かけが大切だと痛感しました。「サロンやよい」にいらっしゃいますように、と声をかけていこうと思いました。子どもさんに声をかけて「おうちはどこ？」と簡単に聞いたら「個人情報だから教えられない」と怒られたばかりで。挨拶くらいにしておかないといけないなと思いました。

- ・喜村：私が1年くらい前から、社協さんに投げかけていることがありまして。まわりを見ると、独居の方が多くなった。高齢者の独居ということでお買い物が大変になってきている話を聞きます。

暑い中、バス通りまで出るのに徒歩10分くらいかかる。押し車を押しながらバス通りにでて、バスに乗って滝山や花小金井に行くのはできるが、帰りを見ているとまた大変なのです。すごく重たいのを押しながら道を帰ってくるのは大変だなど。なんとかお買い物ツアーみたいなものとかできないですかと。やっているところもあるので見学をしたり、話を聞いてみるということを少し教えていただいたのですが。一番大事なのは車をどうするか。そこがなかなかうまくいかないかもと。そのまま話をしていないのですが、周りを見ているだけでもお買い物が大変になっているなど感じられて。何とかならないかと思い、考えています。

- ・三牧：役員になったばかりなので、わからなくて、役員で会員名簿をつくっている。その中で調べると高齢の方が施設に入られて誰もいないという家がある。高齢者の方同士では分かっているのですが、若い人とはコミュニケーションがないので、分からない。私なども何も知らなくて。話を聞いて初めていないことを知りまして。将来的に家がそのままになってしまうと、事故とかおこってしまうのではないかと。そういうところの現状がわかりません。私自身もどうしたらよいかわからないのですが、そういうのがわかってきました。

周りの人たちを見て、確認しながらこの家は空き家であるとか、どこへ行ったのかとか、コミュニケーションしながら調べていく必要があるのかなと思います。今、そういうところしかわかっていませんが。

- ・山口：私のところも独居の人が多。集いをやる前から思っていたが、やっぱり今変な話、散歩しにくい。散歩していると変な人が来ると思われるような。窓から見られちゃうと、散歩がしにくい時代になっちゃったけど、ある程度年齢がいったら

散歩しないとだめだなと。自分の為にも地域の為にも散歩して、子どもたちを見守るため、老人を見守るため、体力があるときはできるだけ散歩しないと地域がよくなりませんと思っています。みなさんも散歩しましょう。

- ・和田：喜村さんと同じ「サロンやよい」でお手伝いをさせてもらっています。
- ・山口：「サロンやよい」よいですね。私も行きたいのですが。
- ・和田：来てください。すごく楽しいですよ。
- ・山口：行きたいのですが一歩踏み出す勇気がない。いきなり行けばよいんだけど、行くまでがね。歌を歌わないといけないじゃないですか。小学生の時から苦手なのです。司会もですが、やってみたいなと子どもの頃に思っても、そんな才能ないし。頭もよくないし。じっとしていようと何十年も過ぎちゃった。60過ぎてやっと殻が取れたというか、とりあえず頼まれたらやってみようという生き方にしようと思って。頼まれてからやるのですけれども、そういう生き方もいいかなと。よろしくをお願いします。
- ・沖原：地域に限定したお話ではないのですが、やはり先ほど喜村さんがおっしゃったようにお買い物に困られている方なんかは、お電話で話をよく伺います。今回のコロナの関係で、急に外に出るのが難しくなって、地域の施設が使えなくなって、お稽古ごとや習い事がなくなってとなると、もう一人になってしまう方がたくさんいらっしゃいました。

そういった方でも、買い物が難しいとおっしゃる方に近所の運んできてくださるスーパーとか紹介して、オンラインでどうにか人とのつながりを保てないかということやってきました。実際にお電話して一緒に操作をして、ネットスーパーのようなものを使えるようになるまで、百回くらい同じことを聞かれます。聞かれるたびに何回もする。そうすると使えるようになる方もいます。

電話で注文できる場所はハードルが一段階下がるし、皆さまで集まって買い物いくというのもひとつの案であると思うのですが、そういうサービスをしてくれるところをつくる、というのもひとつの案なのかなと感じたところです。

集まれるところをつくっておくことはすごく大事です。さらに、足が悪くなったり、お出かけが難しくなった時にでも、自宅にいながら集まれる場があると、よりずっと楽しく暮らせるのではないかと感じております。引き続き教えてください。ありがとうございます。

- ・山口：西中は給食をオンラインで頼むのですが不安ですね。本当に注文できているのか来るまでわからない。いちいち給食事業者さんに「注文できていますか？」と聞いていて「できていますよ」と聞くと「よかった」って。
- ・沖原：皆さん不安だと思うのです。わからないことを聞ける人が近くにいると安心して使える。「これ大丈夫かしら？」「それなら大丈夫ですよ」というのはオンライン上ではだめで。地域で直接会える人の中に聞ける人がいるとすごく安心かなと。
- ・山口：確かにそうですね。これからオンラインはすごく大切だなと思うけど、年をとっているとすごく不安。これできるかなとか、うまくつながっているのかなって。確認ができないから。
- ・沖原：あとはお金ですね。自分の持っているものの範囲でどれだけのことができるのか。通信環境であったり。シルバーパスみたいに65歳になったら、ワイファイ

が無料になる地域になるといいな、と思います。そうしたらお孫さんといくらおしゃべりをしていても心配がない。

- ・北川：環境ですね。操作ができないとなってしまう。我々も実際にオンラインの提案をしたのですが、高齢の方からのお話で、実際に環境がないところではちょっと難しいと。
- ・沖原：まずはオフラインの場がないと難しい。いきなりオンラインの場はつくれないですね。
- ・北川：高齢者でスマホ、パソコン持っている方はどのくらいいるのか。
- ・佐々木：どこかの地方でパソコンを貸し出し、教えてくれる方がいるところもあったと思う。東久留米の実態を考えると、パソコンの貸し出しは到底ないと。お年をとっていれば、スマホを持っているかといえばそれも難しいことで、ガラケー自体もカバンに入れたままとそういう方がほとんどなんで。そういうところをどうやってクリアするか。教える人が地域に一人じゃ足りないですね。こちら三軒に一人ぐらい教えてくれるとよいか。ネットワークがきちんとできれば、安心だし、買いにいけなければ、ちょっと行ってあげるとかもできる。相手の顔を知らないとはやはりそれもできない。

先ほどお散歩するのに、まわりから胡散臭く見えるとあったが、防犯パトロールなど犬につけていたり、自転車にもつけていますよね。そういうものの代わりに、ベストでも着て、見まわり中というベストを着て歩くのがいよいいのではないかと思います。

- ・山口：ちょっとはずかしいな。
- ・野島(西部包括)：今、買い物が難しくなってきたという話ですが、スーパーとか大きな薬局さん、そういうところでお米とか売っていますよね。小さいものは運ぶのは大変ではないけれど、お米とかトイレットペーパーなど大きいものは配達してくれないかと、何軒かまわってお願いしたこともあるのですが、やはり人件費とかいろんな理由で断られたことがいっぱいあった。

ただ、包括支援センターで地域ケア会議というのを開催している中で、一番初めは滝山団地でしたが、自治会員であればちょっとした困りごとを少額で頼み、受けられるような組織をつくった。それを会議の中で発表してもらった後、久留米西団地自治会でも同様の「おたすけ隊」というのが発足しています。

交通の便ですけれども、いま東久留米ではとってもよい「くるぶー」っていうのがあるので、もしみなさんで「今日はみんなでお買い物行こうよ」となったときに申し込んで、買い物の日に来てもらうのもよいのではないかと思います。全く案がないわけではなく、そういう乗り合いができていますので使ったらどうかなと思います。利用は登録制です。みんなで登録しておけば使えます。

- ・山口：この前、学校で膝を痛めまして、重たいものを持ってない時期があった。スイカを食べたいと思ったのですが、自転車に乗れないし、持ち帰れないなどあきらめてしまった。そういうのがあるなら便利ですね。個人でも登録しておけば大丈夫？
- ・野島：登録しておけば。それで一回500円。
- ・荒島事務局長：利用できるのは70歳以上か妊婦さん、3歳未満のお子さんがいる方。付き添いの方も利用できる。2人以上で乗る場所、降りる場所が同じだと一人

300円で往復600円になる。

- ・野島（西部包括）：そういうのも検討してみるとよいと思います。お金は必要ですが何をするのにも必要ですからね。
- ・山口：300円で利用できるのはよいですね。
- ・荒島事務局長：降りるところは決まっている。地域センターとか上の原は連絡所とか。公共施設とか病院とかの場所になる。
- ・喜村：商品を持ってきてもらおうと、持ってきてもらったで「ちょっとな」と思うのですよ。自分で10分でも20分でも歩いて、買い物に行くということが、皆さん昔からやっていることで、歩くことをしなくていいよとなるのも困るのです。
- ・野島（西部包括）：歩けない方はほとんどヘルパーさんに頼んでいます。
- ・佐々木：東村山に母が住んでいて今は施設にいる。母は「ねこの手サービス」を頼んでいた。30分くらいというものでチケットを10枚くらい買っておいて、ゴミ出しをしてほしいとか、簡単な用事をしていただくサービスです。
そうした弥生地区独自のサービス、若い方に協力メンバーになってもらって。電話をいただいたら、承るようなかたちを。簡単なお手伝いがあってもよいのかもしれない。
- ・山口：やってみようと思うといろいろなことがありますね。弥生地区は飛び地で不便なことが多いですね。皆さんのご意見を聞いて、できなさそうでもできることが多いのだなと思った。散歩してみて、ここにこういう人が住んでいると把握していかないと解決できないのだなとつくづく思いました。

4 今年度の取り組み

- ・江連（社協）：とても良い話し合いになっています。今の話し合いを踏まえて、検討していけるとよいのかなと思います。

第一に、秋まつりを開催するかどうかです。開催することにこだわらず、コロナ対策、新しい様式を守りながら顔の見える関係づくりを今のような話し合いの中で企画することもよいのではないのでしょうか。

配布資料「令和2年度の運営・取り組み」は、今年2月に話し合った意見のまとめで、まだ案の段階です。話し合いの結果、目的は変更なし。取り組みに関しては、若い人たちにも加わってもらおうと。今回、沖原さんがご参加されていますが、若い人たちにどのように加わってもらおうか、新たなアイデアが期待されます。

対象地区は、弥生地区に限らず近隣（小平）も含める。小平市の学校に通っているお子様もいるとのこと。近隣（小平）の自治会関係者と顔を合わせる機会があったらよいとのご意見がありました。

会則は、これを絶対につくろうとのご意見はなかったのですが、今後主体的な運営を考えていくにあたり、自己財源のほかに補助金等の活用を検討することがあると思います。会則は、私たちが何者で、どういう目的があって、こうゆうことをやろうとしているということを、全体で合意していると対外的に示すものです。

主体的な活動に対する補助金や助成金は、社協を含めていくつかありますが、申請にあたり会則を求められることとなります。「サロンやよい」も会則をおつくりいただき、社協の補助金をご利用いただいております。

定例会は、本日は山口さんが進行役でしたが、今後も分担しながら話し合いをすすめていくかたちです。

■ 秋まつり → 今年度は中止し、他の屋外行事を検討する

- ・ 山口：今まで取り組んでいた秋のお祭りをどうするか。
- ・ 喜村：コロナ時代でどうやってするのか。
- ・ 山口：コロナは、ワクチンがない以上は私の意見としては、一旦中止にした方がよいかと思います。
- ・ 喜村：集まるのが大人数だから、ちょっと心配ですね。
- ・ 北川：開催場所が高齢者施設（けやき園）ですが利用するのはOKですか？
- ・ 喜村：けやき園では7月末までは会場の利用をお断りしているそうです。施設でのボランティアもお断りしている。その先のことは、8月は夏休みだからやりませんよね、ということで。「サロンやよい」も9月から再開することに決めている。そこまでは施設長からお話があった。秋のお祭りの件はわかりません。その間、感染者が増大したらできないでしょう。

「サロンやよい」のやり方も考えないといけない。30人程の人数なので、間隔を取りながらできないかと。お祭りの場合はもっと人数多い。身動きできないくらい集まってしまう。

- ・ 井上 (防災防犯課)：お祭りの話が出たので、市でイベントをどのように取り扱っているかをお話させていただきます。今ちょうどステップ3になったので、ようやく飲食が可能になりました。それまで飲食だめでした。飲食可になりましたが、本来の定員の半分でやってくださいという形になっています。

イベントの規模は1000名までとなっておりますが、ビュッフェ、大皿での提供はだめです。市民祭りを毎年秋にしていますが、今のところ正式に中止とはでていないですけれども、もう中止の方向で話が進んでいます。屋外とするイベントですけれども、やはり人が密集してしまうのでその管理ができないということで中止という運びで進んでいます。

あと生涯学習センターまろにえホールを利用する場合、全員に住所と名前を書いていただくといいかたちです。500人ホールで250人として、250人の住所や名前を書いてもらうならよいですよと、結構ハードルが高い条件になっています。7月の音楽祭という小中学生が演奏し合唱するイベントは中止に。9月のいきいき長寿大会も中止の方向で話が進んでいます。

残されているのは市の50周年記念イベント。こちらはまだ私の耳に入ってこないもので、まだ何ともいえないのですが、難しいと言われていています。けやき園でのイベントも同様に難しいのではないかと、私の個人的な意見です。

- ・ 野島 (西部包括)：付け加えて。施設がだんだんと開放になっていて、自主グループに伺うようにして新しい生活様式について話をさせていただいている。最低1mはあける、マスクをする、消毒をする、必ず熱を測る。

市から言われているのは、飲食を伴うのはOKが出ましたが、歌うということはOKがでていない。そのため、歌声喫茶弥生だけではなくて柳窪でもやっているの

ですが、そちらもどうしようかと。お茶のみだけにしましょうとか話し合いをされています。だから飲食がOKであっても、なかなか今までどおりに物事が進められないというのが現状です。

- ・喜村：2 m離れていても歌を歌ってはいけないと決まっているのか？認知症カフェなど市内にはいくつもあるが、特に連絡はなかった。
- ・野島 (西部包括)：大きな声を出すことがいけない。飛沫は隙間からでるということです。今現在の市の情報です。このまま抑えられれば、またOKができるかもしれないという状態です。
- ・山口：私の印象からすれば。外でやれば大丈夫で屋外だったら餅つき大会とか盆踊りみたいなものかと思いましたが、それも難しそうですね。
- ・喜村：天気も考えないといけない。どんな天気になるか分からないから。
- ・山口：今年は、2週間くらいしか子どもたちは夏休みがない。何か夏に九小の子とか七小の子集めて、小学校の校庭を借りてイベントをやってもよいかと思ったが、それも難しくなってきました。子どもじゃないけど「つまらないな」という感じですね。せつかく3年間でやっていこうという勇気もでたのに、また引込まないといけないのかと。それも嫌だなと。何かないですかね。
- ・野島 (西部包括)：今のところは、お祭りは無理ということになりますかね。相当状態が良くなるまでは、祭りの件はとりあえず置いといて、他に何か周りを見て歩くとか、防災上危ないところを何人かでまわるなど。何か取り組みを考えていくということでしょうか。
- ・山口：独居老人がいるので、民生委員の人と把握するのを一緒にやるのもよいか。そろそろ時間になりますが、何かありますか？
- ・喜村：会則をつくる件ですが、つくるのが良いと思います。会則がないと通帳も作れない。会の名前で通帳がつくれませんから。
- ・山口：次回はお盆すぎでの開催にしましょうか。この集いは、思いついたことを気軽に話ができる機会にしたい。今回のように色々なことを聞いて、できないことでも何となくできるように話せる場、老人がざっくばらんに話せるような場にしたい。私たちがいつまでも健康で、話し合える場所をつくっていきたいなと思います。

以 上

【次回の会場借用】

喜村秀子

【報告や開催案内の配達】

沖原寧子、喜村秀子、佐々木智恵子、和田きみ、山口信夫、杉本博嗣、矢島美保子

(次回) 8月23日 (日) 午前10時から11時半

場所: わくわく健康プラザ2階 集会室1 (会場が変更になりました)

※ ご出席の際は、8月19日 (水)までにご連絡 (電話 042-475-0739) ください。

※ 当日は、事前に検温と体調の確認をお願いします。発熱や咳などの症状がある場合は、ご遠慮ください。

※ 新型コロナウイルス感染症の流行状況により、やむを得ず中止にさせていただくことがあります。